

「JENESYS2016」中国大学生訪日団（招へいプログラム）

（対象国：中国、テーマ：経済・経営、医学、法学）

1. プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団計156名が、3月7日から3月14日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：王占起（オウ・センキ）中国日本友好協会副秘書長）一行は都内で日本の外交政策についての講義を聴講したほか、5つのグループに分かれ、長崎・京都・熊本を訪問し、大学訪問・交流の場を通じて、日本の学生や市民と親睦を深めました。また、各テーマに関する機関・施設、企業等の視察や、歴史・文化・自然等の見学、日本文化体験などを通じ、日本の魅力を体感しました。中国大学生は自身の専門分野のほか、日本の科学技術、様々なサービス、食文化、日中の共通点等に大きな関心を寄せ、SNSを通じて日本で見聞したことを発信しました。

【訪問地】 東京都（全員）、長崎県（59名）、京都府（61名）、熊本県（36名）

2. 日程

3月7日（火）

羽田空港、成田空港より入国

- グループ1・2：東京【見学】浅草寺・仲見世、印刷博物館
- グループ3・4：東京【見学】パナソニックセンター

3月8日（水）～3月13日（月） ※専門テーマごとに分かれてプログラムを実施

●共通プログラム

【オリエンテーション】

【講義】日本の外交政策に関する講義

【歓迎会】

【表敬】中華人民共和国駐日本国大使館

【歓送報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

●グループ1：東京/長崎

【大学訪問】中央大学、長崎大学（経済学部）

【テーマに関する視察】、東京証券取引所、長工醤油味噌協同組合大村工場

【文化体験】瑠璃庵（万華鏡作り）、温泉旅館宿泊

【見学】平和公園、長崎孔子廟、中国歴代博物館、グラバー園、出島、日本科学未来館、東京タワー、深川不動堂、皇居二重橋

●グループ2：東京/長崎

【大学訪問】杏林大学、長崎大学（医学部）

【テーマに関する視察】くすりミュージアム、長崎大学病院

【文化体験】瑠璃庵（万華鏡作り）、温泉旅館宿泊

【見学】平和公園、長崎孔子廟、中国歴代博物館、長崎歴史文化博物館、グラバー園、出島、大浦天主堂、日本科学未来館、東京タワー、深川不動堂、皇居二重橋

●グループ3・4：東京/京都

【大学訪問】法政大学、龍谷大学

【交流】京都外国語大学学生と交流・昼食会

【テーマに関する視察】法務史料展示室、京都地方裁判所

【文化体験】河村能舞台（能楽）、温泉旅館宿泊

【見学】二条城、金閣寺、伏見稲荷、清澄庭園、東京タワー、国会議事堂、皇居二重橋

●グループ5：東京/熊本

【大学訪問】中央大学、熊本学園大学

【表敬・講義】熊本県庁

【テーマに関する視察】本田技研工業(株)熊本製作所

【文化体験】山鹿八千代座（歌舞伎）、温泉旅館宿泊

【見学】熊本城、阿蘇火山博物館、水前寺成趣園、桜の馬場城彩苑、浅草寺・仲見世、皇居二重橋

3月14日（火）

●グループ3・4：東京【見学】中央防波堤埋立処分場
羽田空港より出国

3. 写真

	
<p>3月8日【講義】中原邦之外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官による「日本の外交政策について」セミナー（東京都）</p>	<p>3月8日 中央大学訪問・交流（東京都）</p>



3月8日 杏林大学訪問・交流（東京都）



3月8日 法政大学訪問・交流（東京都）



3月9日【テーマに関する視察】本田技研工業（株）熊本製作所（熊本県）



3月9日【テーマに関する視察】東証 Arrows（東京都）



3月10日【テーマに関する視察】長工醤油味噌協同組合大村工場（長崎県）



3月10日【テーマに関する視察】京都地方裁判所（京都府）



3月10日 長崎大学経済学部訪問・交流
(長崎県)



3月10日 長崎大学医学部訪問・交流
(長崎県)



3月10日 龍谷大学訪問・交流 (京都府)



3月10日 熊本学園大学訪問・交流 (熊本県)



3月10日【表敬・講義】熊本県庁 (熊本県)



3月10日【テーマに関する視察】長崎大学病院 (長崎県)



3月10日 ボランティアガイドと熊本城見学
(熊本県)



3月10日【文化体験】万華鏡作り (長崎県)



3月11日 平和公園見学 (長崎県)



3月11日 グラバー園見学 (長崎県)



3月11日 京都外国語大学学生と嵐山見学、
交流会 (京都府)



3月11日 阿蘇火山博物館見学 (熊本県)

	
<p>3月11日【文化体験】歌舞伎（熊本県）</p>	<p>3月12日【文化体験】能楽（京都府）</p>
	
<p>3月12日 岸田外務大臣、蒲島熊本県知事、大西熊本市長と記念撮影（熊本県）</p>	<p>3月13日【表敬】中国駐日本国大使館（東京都）</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 中国 大学生

グループ1（経済・経営）

来日前から、日本人は細かいところにも気を使い、何事においても真面目だと聞いていたが、日本に着いてすぐに実感した。まず入国審査で、写真と顔を何度も見比べ、パスポートの一字一句を指さし確認していた。ホテルの部屋のティッシュや、トイレトーパーもきちんと三角折りにされていた。公衆トイレの清掃も行き届いており、全く異臭がないか、ほのかによい香りがして、トイレに行くのも楽しくなる。同じ班の学生がホテルに靴下を忘れたが、ちゃんと回収して届けてくれた。尊敬の念に駆られると同時に、私たちに改善すべき点がたくさんあると恥ずかしくなった。

日本では教育を重視していて、それも見習うべきだと思った。日本の教育では、書物による知識だけでなく、小学校の家庭科など、実際に自分で手を動かし、小さい頃から「自分のことは自分でやる」という意識を養うことを重視している。それに比べ、中国には自分の食事すら作れない大学生もあり、どうしたものか、と思う。社会情勢や専門分野について早くから体験するというのも日本の教育の特色だ。私たちが東京証券取引所でレクチ

ヤーを受ける前、ちょうど中学生らがレクチャーを受けていた。私は今回初めて、つまり大学2年生で証券について理解したが、彼らは中学生ですでに理解しているのだ。私は経済の専攻だが、学校の多くの本は解説が難しすぎ、かえってよくわからないが、証券取引所のスタッフによる1時間のわかりやすい解説で、証券の基本を理解することができた。知識の習得とは、詰め込み式で学ぶことではなく、体験を通して無意識の内に自身の能力として身に付けることなのだ。

旅行というのは歩き回ることではなく、そこに滞在することである。落ち着いて、道行くいろいろな人を見てこそ、旅行の意義がわかる。

今回の訪問で最も影響を受けたのは、日本人との交流だ。1人目は、中央大学での交流で同じグループになった大学1年の女子学生。同じ専攻だったが、教育システムが異なるので、主に生活のことを話し合った。99年生まれの女子が一人暮らしをし、毎日自分で弁当を作っているのを知って、私は本当に恥ずかしくなった。それに比べて、中国の学生の自活能力は低すぎる。

2人目は、歓迎会で出会ったおじいさん。とても温和で愛らしく、中国語も上手だったが、私たちが日本語が少しできるとわかると、日本語で話しかけてくれた。きっと私たちの日本語会話能力を鍛えるためだろう。別れ際、中日問題が悪化するのとはなぜだと思おうと尋ねられた。私たちは沈黙してしまっただが、おじいさんは優しい眼差しで、政府間と民間の関係は別だよという言葉をかけてくれた。そうだ！それこそ、私たちの訪日の目的だ、民間人同士の友好と友情。口に出して言うタイミングを逃し、小さな後ろ姿にどうにかさようならと言った。

3人目は、長崎大学訪問で出会った女性教師。パーマヘアで、きれいな、優雅な立ち居振る舞い、自信に満ちた様子は、日本人は英語が不得意だ、という私の固定観念を打ち砕いた。先生は、十数名の学生を相手に、一人の訪問者も疎かにすることなく、温かく迎えてくれた。日本語で話したら、また学生のために英語で話す。大忙しだ。

日本のハイテク、経済、歴史、文化は素晴らしく、ずっと尊敬していたが、もっと素晴らしいのは、日本人の自立したところ、温かい、優しい心だ。

グループ2（医学）

今回、日本に来て最も印象深かったのは日本がとてもきれいだということだ。以前にも、日本は環境がよい、街路がきれいと言われていたが、百聞は一見にしかず。身を以って体験し、その素晴らしい管理力に更に感服した。環境がよいのは、ある程度その地理とも関係しているが、日本の環境面での努力を見落としてはならない。地下鉄の発達、ゴミ処理についての先進的な考え方と処理方法など、中国やその他の国も見習うべきだ。

次に、杏林大学医学部の訪問では、模擬授業を受け、日本の学生がどのように学校で勉強しているのか身を以って体験できた。同時に、先生の教授方法や考え方の違いも理解できた。医学生として、学校、教師、学生が違えば、キャンパスの文化、教育・学習方法も違って来る、互いに学び、手本としてこそ、更に自分を高めることができると感じた。

最後に、両国の大学生同士のこのような友好交流はずっと継続していくべきで、そうし

てこそ、共に発展していけるのではないかと思う。

最も印象深かったのは、長崎大学医療研究所の原爆医学資料展示室の見学だ。日本は唯一の原爆被爆国である。その悲痛な事実を、私たちは歴史に深く銘記しなければならないが、その重い対価として、大量の被曝が人にもたらす障害の研究によって、貴重な資料が得られた。特に、被曝による腫瘍の発生、腫瘍の分類などの分子生物学分野で、多くの学術論文が発表され、その基礎データがこの分野の研究の発展を支えている。

第3の原爆被爆都市が発生しないことを望むとともに、腫瘍分子生物学メカニズム上の新たな進展を期待する。遺伝子の突然変異による腫瘍の発生および生物学的変化を深く研究すれば、腫瘍の臨床治療に理論的根拠を提供することができる。

グループ3（法学）

日本の都市建設は魅力に満ちている。ビルの高低差も秩序があり、色調も統一され、合理的な計画が行われている。また、道路も、車も、建物もちりひとつなく、驚くほどきれい。日本の空は青く、空気もきれいで、視界もよく、日差しが十分に入り、近代建築と古い建物が融け合っている都市は、本当に住みやすい。人も礼儀正しく、親切で、心優しく、一緒にいて居心地がいい。特に人々がお互いに信頼し合っていることは、すばらしい！東京も、京都も、滋賀も、日本が大好きだ。東京では、ハイテクで賑やかな商業地を味わった。京都では、日本人は伝統を深く思い、しっかり守っていると感じた。日本の文化の伝承は本当にすばらしい！古きよき都市！滋賀の温泉と日本料理は今までに味わったことのない心地よさで、日本人の生活を体験し、大満足！日本の大学、特に大学生との交流はとても楽しかった。私は彼らが大好きだ！日本人はよい人で、また日本に来たい、留学して深く勉強したいとまで思わせてくれた。キャンパスの施設は整っていて、カリキュラムも興味深いもので、本当に魅力的だった。日本の対外政策のセミナーを聞き、それまでの日本に対する印象に間違いがあったことを知った。中国は日本にとって大変重要であり、日本も中国にとって大変重要なのだ。日本は中国とWIN-WINの関係を求めている。実際、今回日本側がアレンジした日程を見ても、青年（次世代）が中日の友好の基礎を作り、お互いに信頼していく決心を固めることで、日本への悪い見方がある程度変えることができることがわかった。日本の国会や裁判所を見学し、両国の政治制度—立憲君主と人民民主独裁、司法—陪審員制度と合議制の裁判制度の違いを知ったが、中日両国はお互いに深く影響し合っており、全般的に大きな差はない。中国人にとっての日本は、生活するにも、ショッピングや旅行、交流をするのにもよいところだ！これから、一衣帯水の隣国として往来を進めていくべきだと思う。

中国で日本の街中にはゴミ箱がなく、国民の環境保護への意識がとても高いと聞いていた。中国にはどの通りにもたくさんゴミ箱があるので、街中にゴミ箱のない国という状況が理解できなかったが、今回日本に来て、日本は大通りも路地も本当にきれいで、ゴミのポイ捨てがないのだと知った。それより驚いたのは、街中を走る車も全てきれいで、まるでさっき販売店で購入したばかりのようだ。国民が環境保護を大変重視し、真摯な環境保

全意識を身につけていることを、私たちも見習うべきだ。

また、法政大学と龍谷大学の訪問活動を通して、外国の教育方法や学習環境には中国と大きな違いがあることを知った。中国では教師の講義と教室でのディスカッションが組み合わされているが、日本の大学では教師の講義がほとんどであった。また、是非とも触れておきたいのは、京都で見学した龍谷大学の学内環境が大変素晴らしかったことだ。仏教を建学の精神とし、人間育成を優先し、すばらしい学舎と閑静で和やかな学習環境を備え、本当に理想的な環境だ。中国の大学でもこのような先進的な学習設備や多様な学習空間、自習室、テレビ会議室、グループディスカッションルームなどを提供してほしい。

まとめると、今回の中日交流の旅の収穫は多く、日本の歴史ある文化を学んだだけでなく、日本の現状を理解できた。中日間の友好が百年変わらず続くことを祈り、全ての人に感謝したい。

グループ4（法学）

日中友好会館の招へいで JENESYS2016 の交流プロジェクトに参加できて大変光栄だ。

今回の訪問で最も印象深かったのは、日本の民意が司法の訴訟活動に取り入れられていることと、この制度によって一般人に法律意識が普及していることだ。

例えば、日本の裁判員制度、また、龍谷大学を見学した際、裁判員に選ばれた人（法律の基礎がない場合）に対して育成訓練を行うことを知った。このような方法で、専門的な司法の裁判の結果に、人に寄り添った普遍的な道德観による判断を加えて、法律をより人に優しいものとし、且つ、このような方法で法律意識を高め、法律的常識を普及させることができている。また、裁判の傍聴では、たくさんの地元の人がすすんで傍聴に来ているのを知った。見た感じでは、皆、審判の手順や内容を理解し、熟知しているようだった。また、いろいろな年齢層の人がいた。

次に印象深かったのは、日本人のあらゆるものを敬う生活や人生に対する謙虚な姿勢だ。パナソニックのショールームに食卓の図があったのを覚えている。箸の向こうは自然界、箸の手前は人間界で、食事の前に「いただきます」と言って、自然からの贈り物に感謝する。また、日本人の服装は華美すぎず、黒、白、グレーなどシンプルな服装がメインで、食べ物も素材の味を生かす。このような、周りのあらゆるものを敬う控えめな精神は見習うべきである。

上海の大学生の代表として、今回訪日活動に参加できたことを、大変光栄に思う。活動の内容はバラエティに富み、収穫が多かった。日本文化、日本の礼儀、経済分野の現状などを学んだ。その中でも、深く印象に残ったのは、京都地方裁判所の見学と嵐山散策だ。日本と中国の法律制度は似ているところや、異なるところがあるということ、裁判所の視察で、身を以て知った。嵐山の散策は、短い時間だったが、京都外国語大学の日本人学生のガイドで見学できたのは、とても有意義だった。中日両国の大学生の友情を深めることができたし、互いを理解するための大切なプロセスで、これから両国が共に友好的に発展していくための種をまくことができた。

グループ5（経済・経営）

1週間の訪日交流学习はあっという間に過ぎた。期間中、東京の中央大学、熊本学園大学を訪問し、本田技研工業株式会社を視察し、熊本城、熊本県立美術館を見学して、歌舞伎文化などを体験をした。一つの国を深く理解するには、1週間という時間では全然足りないが、1週間で多くのことを経験し、全てが深く印象に残った。具体的には、以下の点にまとめられる。

1. 文化の継承。熊本地震で、歴史的文化遺産である熊本城が損壊したが、熊本県や県民は20年かけて元の古城を完全に再建する予定で、その時間には、文化遺産の保護や継承についての考え方が表れていることは言うまでもなく、私たちも自省し、見習うべきだ。
2. 物事への対処。まず明確なアクションプランがあり、時間の観念が強く、管理学上のジャストインタイムJIT管理モデルを実際に応用し、仕事の能率を向上させている。中国の企業もその成功経験を吸収して、企業の発展に尽くすとよいかもしれない。
3. 工場管理。本田の工場を見学したが、流れ作業のライン上の機械が、作業員の背の高さに合わせて自動的に調整される、勤務交代時にはラジオ体操があるなど、近代管理学の人を主体とする管理モデルを体現しており、人の能力をより発揮させることができている。
4. 中央大学と熊本学園大学の学生との交流で、日本の学校の教育スキームは中国と違い、学生の実践能力を養うことを特に重視していて、学生は授業外に、多くの時間を好きなバイトに割り、社会経験を積んでいることを知った。中国の学生は自省し、理論と実践を結びつけることを重視して、自身の総合能力を高めるべきだ。
5. 環境保全。日本はどの道もきれいで、人々の環境保護意識が高い。私たちも反省し、見習うとともに行動しなくてはならない。

まとめると、今回の訪日交流は収穫が多く、感じるが多かった。

今回の訪日では、主に東京都と熊本県を視察した。初めて日本に来て、異なる風土と人情を感じた。三つの方面から今回の交流で感じたことを述べたい。

経済面では、日本の都市建設と居住環境はシンプルで快適だ。地理的な特殊性により、日本は地震と火山が多い国だが、自然災害に遭っても、日本人は積極的かつ楽観的に捉えて働き、生活している。熊本県の本田技研工業株式会社を見学した際、近代化された生産ラインで、作業員は白い作業服を着て、各持場で整然と組み立てや検査などの作業を行い、スマートロボットと作業員の手作業が見事に組み合わせられ、作業効率を大きく向上させていた。日本が時間と能率を重視している国だということが見てとれる。だからこそ、日本の経済成長のスピードは世界のトップを占めているのだ。

文化面では、日本は伝統文化をととても重視し、守っている国だ。地震で損壊した熊本城だけでなく、100年の歴史をもつ八千代座も、修理や建替えの際、もともとある材料を再利用し、もう使えない材料さえも別途保管して、重要文化財として保存している。また、数日の滞在で、日本人が大変礼儀を重んじていることを知った。会う度にお辞儀して挨拶し、別れの際は手を振って見送る。電車で会った見知らぬ人も笑顔で挨拶してくれる…こうしたことで、日本人はフレンドリーで温かいと感じた。

エコロジーについては、本当に私たちは日本を見習い、手本にすべきだ。都市の至るところがきれいできちんとしていて、ゴミの分別も成果を挙げている。本田技研の作業員は白い作業服を着ているが、1日着ても汚れていないのは、皆が自分たちの作業環境をきれいに保つよう注意しているからだ。日本の子供も小さい頃からゴミを分別する習慣を身に付けていて、環境保護に役立っているだけでなく、資源も節約し、中国が環境に優しい社会を建設するために大変参考になった。

5. 受入側の感想

◆訪問先で交流した日本側大学生

・中央大学

私にとって2回目となる日中青少年交流会は、前回よりも互いを知る機会となりました。1回目は、フィリピンでの日本の古着市場を題材として発表しましたが、今回は日本の就職活動について発表し、その後の交流の場でも話の内容の多くは、中国と日本の就職活動の違いについてでした。彼らから聞いた話では、中国の就職活動はとても厳しく親からのプレッシャーや期待が高いこと、就職活動を開始するまでに有利とされる資格をより多く取得しておかなければ、就職市場から落とされてしまうことなど、沢山の違いを聞きました。

私たち日本の大学生は、多くが授業後にアルバイトをしたり遊んだりしますが、中国の学生は授業の空き時間は図書館へ、放課後は習い事や資格の勉強、課題に取り組むなど一日の勉強量、時間共に日本人学生よりも意欲的だと感じました。その背景には、そこまでしなければ良い職につけないこと、一人っ子政策による親族からの高い期待、経済格差、教育格差が激しいということが感じ取れました。

私は、中国の学生に見習うべきことは多く、決してニュースや新聞、ネットだけではわからない、本当の声を聴くことができたと思います。どうしても、実際に見ていないものに対して人間は臆測や想像だけでものを考えがちですが、彼らの生の声を聴いたことでそうした考えも覆されました。自分の目で見て、耳で聞いて、心で感じることは本当に大事だと思いました。

日中青少年交流会を通して大事なことに気付かされたと共に、日本の良さや学ぶべきことを感じました。春から社会人になるためとても良い刺激となりました。

・長崎大学（医学部）

この度は中国からの医学生と交流をさせて頂き、誠にありがとうございました。私自身、医学部キャンパスでの留学生サポートを行っており、海外の医学生や医療事情について非常に興味を持っています。そのため今回、喜んで交流会への参加させて頂きました。わずかな時間ではありましたが、中国の学生の方からたくさんの質問を受けました。質問は、日本で医師になるまでの過程、専門を決めるのはいつなのか、なぜ医師になろうと思ったのか、さらには日本での医師のステータスなどについても聞かれました。また、漢方の授業はあるのか、といった面白い質問もあり、長崎大学でもそのような講義があるとお答えしました。患者と医師間でのトラブルが中国では多いが、日本ではどうなのかという質問

もありました。時間が限られており、ディスカッションすることができなかったことが残念でした。

時間の関係でこちらから質問をすることは難しかったのですが、またこのような機会があれば中国の医療事情についても聞いてみたいと思います。今回、このような貴重な機会を頂き本当にありがとうございました。

・法政大学

日本では中国での反日デモや反日感情、また、中国からの観光客のマナーの悪さをとりあげたニュースなどを見るのが多く、北京や上海などといった中国の地域の人にあまり良いイメージは持てないでいました。大学での生活でも台湾や韓国から来た留学生とは親しくなりさまざまなことを話しましたが、中国からの留学生とはあまり親交がなく、やはり直接いろいろな話をして、メディアだけで作られた先入観を取り払いたいと思い、交流会に参加しました。

交流会当日は9人ほどの中国人の中に日本人1人という状況で、とても緊張しましたが、中国人の皆さんのほうから積極的に話しかけてくれ、さまざまな話をすることができました。話した内容は主にディスカッションテーマに沿った日本と中国の大学生活でしたが所々で「中国に来たことある？」「中国に来たいと思う？」と聞かれ、自分たちの国が日本人たちに悪いイメージがないか気にしていたようにも感じ、また、日本人たちを歓迎する気持ちを表していたようにも感じました。交流会の間、終始親切で積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれ、私は二つの確信を持ちました。一つは、やはりメディアの情報を信じすぎてはいけないということです。日本でニュースになるのは目立った一部の人たちであり、それは中国人全体としてのことではないということ、日本にも中国人と仲良くしたいと思う人が大勢いる一方で、あまり良くない感情を持つ人もいるように、それは中国でも同じだということ、そのようなことを感じました。そして二つ目の、民間人同士の交流が今後両国にとって大変重要になってくるということです。メディアの中のものが全てと思わずに、自分で直接関わってみる。そうすれば、日本人中国人という二分した括りではなく、人と人の交流になります。中国人だから…という考えはやめて、一人一人を見ることが大切だと感じました。

たった一日の交流会でもこのようなさまざまな発見と新しい視点を得ることができたこの機会を与えてもらったことを大変ありがたく思います。ありがとうございました。

・京都外国語大学

「なんで中国語を勉強しているの？」「嵐山ってどんな場所？」「微博やってる？交換しよう！」。2時間あまりの嵐山散策は、質問の嵐だった。学生も同伴していた教員も元気いっぱい、中国の次世代を担う彼らに圧倒されてばかり。訪問団の中には初めて日本に来たという学生も多数いて、見えるもの肌で感じるものすべてが新鮮だったそう。そしてなにより、現地の日本人との触れ合いが最も刺激的だったようで、彼らとの交流を通じてそれに貢献できたことが私としても嬉しい限りだ。

・熊本学園大学

中国の大学生の質問が沢山あり、内容を学べることについてのことだったり、日本のことや私の大学のことについて、興味を持ってきているということが伝わってきて、嬉しかったです。今の国際状況をメディアだけで捉えることなく、今回のように実際に両国で交流することで感じていた印象は大きく変わると改めて思いました。また、中国語を話せるようになりたい、と今回の交流を通じてより強く思うようになりました。

6. 参加者の対外発信

	
<p>大学訪問についての発信</p> <p>本訪日の関係者、協力してくれた大学の先生やクラスメイトに感謝している。法政大学で受けた民法と消費者法についての授業は大変有益だった。中国の大学生、中日両国の友情を応援している。</p>	<p>平和についての発信</p> <p>一都市の建設には、何世代もの人々が必要だが一つの都市を壊滅させるのは一瞬だ。悲劇が再び起こらないよう、未来の子どもたちがずっと太陽の下で生活できることを祈っている。</p>

docomo LTE 15:05 97%

返回 #jenesys2016中国大学生代表... 主页 精华 相册

3-12 来自UC浏览器Android版

#jenesys2016中国大学生代表团#中日关系正常化45周年，中国大学生作为未来45周年的建设者，有机会到访日本建立友好共识，意义非凡。上海法学分团行程接近尾声，谈论获得感却还太早——几天的视觉浸染将作为深入思考乃至理解的素材。

发微博 聊天室 更多内容

3-8 来自 HUAWEI Mate 9

生姜猪肉餐加味增汤，虽然有点吃不惯，不过日式风格满满，也是另一种体验~

日本·东京

訪日中の感情について発信

中日国交正常化 45 周年に日本に来る機会に恵まれ、誇らしい。この数日で見えたものは、これから物事を深く考えるための材料となるだろう。

和食についての発信

しょうが焼き定食と味噌汁。食べ慣れていなくとも、日本の雰囲気には溢れていて、これもまた体験だ。

6小时前 来自 HUAWEI Mate 9

二条城，德川家族初代为定期参见那时已没有实权的天皇而修建的，也叫离宫。德川家族的后代干脆就完全无视天皇了，不会再从江户到京都。据说当时西军势力比东君强大很多，没想到西军取得了胜利...在御殿里光脚行走，可惜不让拍照。二条城是世界文化遗产，值得一来。

08:59 94%

微博正文

3-12 22:10 来自 够快才畅快vivoX6Plus 125 阅读 推广

#jenesys2016中国大学生代表团#接近尾声，今天体验了能乐文化，感触颇深，感谢日方的精心安排！
Kyoto——Shikansen——Tokyo

日本·东京

转发 评论 赞

<p>京都での参観について発信</p> <p>江戸時代の二条城の役割と歴史について。御殿を裸足で歩き、写真が撮れなかったことが残念。二条城は世界文化遺産であり、一見の価値がある。</p>	<p>日本文化体験についての発信</p> <p>能楽文化を体験した。とても感動したし、日本の心のこもったおもてなしに大変感謝している。</p>
---	---

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 博士課程の卒業論文作成において、できるだけ日本の法律に関する資料を参考にしたい。 ・ 日本人は細かいところまで気を使い、日本の法律も十分に整備されていると思うので、中国の法律にも、とても参考になるはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字と写真で整理し、パワーポイントの文書を作成して、フォーラムに発信する。 ・ 大学、大学院の同級生と意見交換する。 ・ 日本語を勉強して、日本文化を更に理解する。日本の友人と連絡を取りあって、積極的に交流する。 ・ 日本に関係するイベントに積極的に参加して、もっと感化を受けたい、そしてグループチャットや Wechat など SNS で皆に伝えたい。